

二級河川夏井川水系河川整備計画（案）に対する意見と県の回答

縦覧期間：令和 7 年 1 0 月 3 1 日（金）～令和 7 年 1 1 月 1 4 日（金）

意見提出者数・提出された意見数：5 人・1 0 件

No.	意見者属性	意見	県の回答
1	いわき市在住 年齢非公表	1 河川に水量高表示を数多く建てる 色分けをする。たとえば、安定m、危険m、避難m ※橋の下も大事ですが、遠くでも見えるように	夏井川流域では、河川の状況を数値で確認できるよう水位標示板がいくつか設置されております。しかし、増水時などは河川への転落や越水時の巻き込まれの危険があります。 県管理河川の水位などについては、福島県流域総合情報システムのWebサイトで公表しており、現地に赴かなくても安全に確認ができますので、ぜひご活用ください。
2		2 河川にふれる場を建設する 常日頃から市民の”目”であぶない危険を表示板を設置して情報を得る。 ※市民が日頃から自分たちを取りまく河川に目配り、気配り、することが大事かと。	ご提案のありました「市民が日常的に河川に触れ、危険に気づけるような場づくり」につきましては、河川への関心を高め、防災意識の向上を図るうえで重要であると認識しております。 日頃よりハザードマップで避難所や避難ルートを確認するなど、防災意識の向上を図ることは重要であり、また、ご提案のありました「表示板の設置」は、河川への関心を高め、市民が日常的に河川に触れ、危険に気づけるような場を作るために大切な取組であると考えます。現在、全国各地では、河川敷の親水空間や散策路の整備にあわせて、注意喚起看板や水位表示などを設置し、河川利用者に危険情報を分かりやすく伝える取組が進められております。こうした事例も参考にしながら、夏井川流域においても検討してまいります。
3	いわき市在住 70代	1、災害復旧工事後きれいに整備して頂きましたが堤防の盛り土に今までない雑草が生えてきて道路まではみ出して苦情が多い。 2、県のほうで草刈等整備して頂きたい。 3、ごみなども今まで以上に捨てててあります。 4、草刈堤防があまりにも広くなったので維持管理が難しい。 5、堤防の盛り土にガラス瓶やせともの等が多く混ざって有 草刈りしているとき危険でした。草刈刃もたない。 6、町の堤防には補助金出して頂き花等で綺麗にしてください	草刈りや清掃活動については、地域と協力しながら進め、住民の皆さまと河川愛護に対する意識醸成を図っていくことが重要であると考えております。県では、堤防の除草作業の効率化を図るため、貸与可能な除草機械の台数を増やすなど、地域での作業負担軽減に努めています。また、不法投棄対策として、堤防管理用通路への一般車両の通行規制を行うなど、河川環境の改善にも取り組んでおります。 加えて、良好な水辺空間の保全と河川愛護の高揚を図ることを目的として、河川沿いで花植えを実施する地元ボランティアに対し、花苗費用を支援する仕組みがあります。 引き続き、地域の皆さまと協働しながら、安全で快適な河川環境づくりに向け、支援の継続・拡充に努めてまいります。
4	いわき市在住 年齢非公表	①新川土手の草刈りは年2回実施しています。以前は町内会の役員で行っていましたが高齢になり現在ではシルバー人材センターに草刈りをお願いしております。尚1回の草刈りでは8.5万～12万の支払になっており又、毎年草刈りの料金が値上りしており支払いが困難になって来ております。行政からの助成費の増額をお願いし増額がなければ行政の方での草刈りをお願いします。	少子高齢化の影響により、草刈り等の継続が難しいことについては、各地区からご意見をいただいております。県としても課題として認識しております。また、河川愛護活動に対する協力金は、令和6年度に増額するとともに、除草作業の省力化を図るため、貸与可能な除草機械の台数も増やしております。 県としても、除草は堤防管理面積の広さから全ての箇所に対応することは困難な状況であるものの、出水時に流水の障害物となる樹木等については優先的に除去作業を実施しております。今後も、地域の皆さまからのご意見を伺いながら、除草の効果的・効率的な方法を模索し、地域の皆さまと協働して取り組んでまいりたいと考えております。
5		②昨年度対岸新川土手の谷川瀬側の桜の木の根っ子を補修して土手の高さが30～50 c m位高くなっているので私達の作町側の土手の高さを上げてほしいです。	新川の堤防の高さについては、今後測量を実施し、河川の計画に対して高さが不足する範囲の嵩上げを検討してまいります。
6		③最近の大雨時に土手のとなりの道路にへびと亀が出てくると道路の割れ目3カ所より茶色の水と砂が出てくるとの近くの住民より苦情がありました。愛谷町のように土手をコンクリート擁壁（ようへき）にすればへびも上らないし土手の草刈りの面積も少なくなると思います。	いわき市平愛谷町の新川におけるコンクリート護岸については、令和元年東日本台風時に漏水が確認されたことから、堤体の安定性を確保するため、必要に応じて実施したものです。 一方で護岸構造については、経年による劣化が生じにくく、長期間安定して機能する土堤護岸を原則として採用しています。
7		上記3点の対応のほど宜しくお願い致します。 追伸 早く新川土手中央の河道掘削をお願いします。	河道掘削等については、いわき建設事務所管内の河川のうち、洪水リスクや浸水被害の可能性が高い箇所を優先し、順次実施しております。 今後も、河川管理上必要な箇所については計画的に対応してまいりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

No.	意見者属性	意見	県の回答
8	いわき市在住 70代	宮川に於ても勝手橋の除却や橋脚の除却等実施済であるも、それ等に拘る原因としての流木等に対する対策も必要不可欠である。	令和５年９月豪雨時の宮川沿川の浸水においては、上流域から流出した立木が橋梁等に多数引っかかり、河川の流れを阻害したことが一因と考えております。 間伐などの山林の維持に加え、流出した流木対策の必要性については認識しており、現在流木捕捉工の設置を検討中です。実施にあたっては、地域の皆様に事前に周知してまいりたいと考えております。
9		30年の月日をかけての宮川の拡幅工事も計画されているも気候沸騰化の時代に対して適した対策とは思えない。難問には思おも代替案を模索出来ないか。すべきに思う。	宮川の治水方式の検討においては、貯留施設を含めた複合的な対策を検討した結果、河道拡幅単独案が最適であると結論づけております。計画の内容や目的について、住民説明会等を通して地域の皆さまに丁寧に説明を行い、ご理解をいただきながら進めてまいりたいと考えております。 工事着手後は早期に事業完了できるよう努めてまいります。
10	いわき市在住 70代	先日、NHKのTV番組で東京都渋谷駅前の豪雨対策の映像が流れました。洪水発生時間を遅らせるために地下貯水タンク（4000㎡）の設備を稼働させているものでした。 例えば３０分遅らせることにより個人の財産（自分の生命を含む）を守るためにできることがあることを改めて考えさせられました。 県の説明では、宮川の水害対策には140,000㎡の貯水能力が必要とのことだがそれでも先の集中豪雨の雨量の洪水被害は防げないわけで、既存の県道と平地区を守るために他を犠牲にしているような気がします。 峰根川の上流部に５０００㎡の空き地があり、さらに隣接する数軒の民家の移設でさらなる空き地の確保も可能となり、上流部での流量調整能力を上げることで河川改修方法も変更できるのではないのでしょうか。 先の豪雨の折にも新川の排水機場の一部が稼働されませんでした。 今の計画では、県道と新川沿いの平地区を守るために宮町や内町地区のいくつかのコミュニティが消滅することになります。更に過疎化が進むでしょう。 これが正しい河川改修計画なのでしょうか。再考をお願いします。	報道等で紹介されている都市部の地下貯留施設は、河川の拡幅や堤防整備が極めて困難な場合など地域の状況に応じた対策の一例として有効なものです。 一方、宮川の治水対策については、地形条件や土地利用状況などを踏まえ、貯留施設を含む複数の方法を比較検討したうえで、河道拡幅が最適な方法であると判断しています。 ご意見の中で「県の説明では宮川の水害対策には140,000m³の貯水能力が必要」との指摘がありましたが、今回の河川整備計画で対象とする“50年に1度の降雨に対応する規模”に対して、河道拡幅を行わないで対応するには、事業範囲3kmにわたって川底を50cm～1m程度掘り下げる河川工事と合わせ、さらに合計で約20万m³の貯水容量をもった施設が必要となります。 ご指摘の峰根川上流部の空地の貯水容量を約1万m³と推定すると、必要量にはその20倍規模の土地が必要となります。また、峰根川だけに施設を設置しても洪水調節効果は限定的であるため、宮川沿いの住宅地にも大規模な用地を確保する必要が生じ、それを考慮すると河床掘削と貯留施設を合わせた整備は、河道拡幅よりもかえって地域への影響が大きくなってしまうことから、河道拡幅を採用したものです。 今回の河道拡幅を中心とした河川改修計画は、令和5年9月の洪水で甚大な浸水被害を受けた宮町・内町地区等の治水安全度を向上させることを目的としています。また、宮川沿いの県道小名浜小野線は地域の交通を担う幹線道路として、自動車類交通量が3千台を超える重要な路線です。 なお、令和5年9月豪雨時に新川の排水機場の一部が稼働されなかったとの情報については、管理者等の関係機関に確認してまいります。 河川改修は地域の皆さまのご理解とご協力があって実施可能なものです。沿川地域の安全・安心の向上のため、今後とも御理解と御協力を賜りますようお願いいたします。